

木知原の今昔!

45号:24・8・16

飛び入り号

“広島・長崎&終戦(終戦日・記念日)”
♥この時期戦争の悲惨さを伝え平和を願う「語り部」の活動が話題になるが木知原では何が語れる?

はじめに

政治的思惑は全く無いが「戦争・語り部」を話題に「飛び入り号」を発行しました。

戦争を語り継ぐ(語り部)活動も戦後80年。戦争体験者が少なくなり継続が難しくなっている。

先日広島か長崎の高校生が“戦争を知らない自分が語り継ぐことの難しさ”を語っていたが同感である。では私自身何かアクションを起こしたかと言えば恥ずかしいが皆無である。

私が戦争論をぶっても響かないが『木知原に語り継ぐものは無いのか!』そんな矢先…

名知元朔氏著書「木知原百年史」《兵役の義務と戦没について》の記述に下文を見付けた。

「木知原では支那事変以来終戦までに五十名参加、内十八名が戦死されたのである」

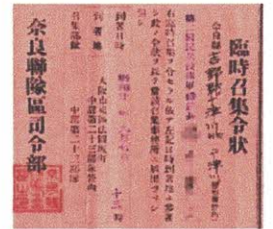
繰り返しとなるが

50名に召集令状内18名が戦死された 確かな記録である

「支那事変から終戦」とあるは歴史的には1937年(昭和13年)から1945年(昭和20年)までの8年間をさしており、この間の戦争を「8年間戦争」とも呼んでいる。

戦争呼称は複雑で「支那(志那)事変・大東亜戦争・第二次大戦など立場によって呼称が異なる。支那事変の期間に至っては今もって諸説ある。

召集令状とは兵隊補充のための通知書である。終戦間際まで全国の17歳～45歳の男子対象に発行された通称「赤紙」と呼ばれ各種あった。



召集令状は郵送ではなく、警察か役場の兵事係が「おめでとうございます」と言って届けた。当世その説明は畏れ多くて遠慮するが(各自の想いで)当時の世情は推して知るべしである。

私が語れることは出征兵士を見送った体験くらい

4歳時のとぎれとぎれの記憶であるが…

(間違いあればご容赦を)

村人は手作り国旗を手に田社神社に集まり出征兵士の武運長久を祈願した後参道の両側に分かれて「バンザイ」を唱えながら兵士を鳥居付近まで送った。

兵士は用意された馬で「赤石駅」へ。村人も国旗を振りながら赤石駅迄見送りに参加した。

兵士が乗る電車の後部には国旗が飾られ兵士はその最後部(運転席)立って見送りをうけた。

見送りは電車がホームから見えなくなると急いで万代橋まで戻り、橋上から電車が北野畑駅手前のカーブで見えなくなるまで「バンザイ」の声で送り出した。(欄干は供出され竹と丸太であった)



♥二人を見送った記憶はあるが誰であり帰還されたのかどうかもわからない。

『これから戦争に…』と言った感情はなく電車が見えなくなった時不思議な寂しさを感じたようであるが…

今思えば『村として出来る精いっぱいの見送りセレモニーであった』と思う。

あとがき

戦死者(18名)の殆どが旅順・中国・満州・ソロモン・南支那海など日本を遠く離れ地で戦死されている。:戦没者(兵士+一般犠牲者)戦死者(兵士のみ)

♥木知原は幸いにして直接の戦禍を被ることはなかったが、多くの尊い命が失われたことは、ご家族は無論のこと村にとっても大きな犠牲であった。今も…

「Q 何が語れる?」と問われても名答は無いが、個々の心にある「NO WAR」を後世に活かしたいものです。

♥「飛び入り号」が参考になれば…幸… 以上